

十島村教育委員会だより 平成29年6月号

# せわやがとカラ情報

南北160km 「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会  
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号  
TEL 099-227-9771

## 6月・・・職場体験学習・七島集合学習

十島村教育長 有村孝一

5月の末から6月の初めにかけて同時期に、職場体験学習と七島集合学習が実施されました。職場体験学習は3年に一度の実施です。そのねらいは、①自分の進路に対する関心を深める。②職場体験学習に目的意識を持って取り組み、自分の新たな可能性を見出す。③体験する事業所の仕事内容を分かり、職業観、勤労観を育てる。の3つです。

参加する24人の中学生が体験する先は、鹿児島中央卸市場魚類市場、お菓子店、病院、鹿児島水族館、幼稚園、スーパーマーケットと十島村役場です。今年



も、生徒たちが深い感動をもって学習を終了しました。自分自身が、その事業所での担い手として、他の方々と同じように仕事をする事により、仕事に対する責任感を感じながらの活動だったようです。自分の作ったケーキが実際に売れた時の喜びはどれ程の深さであったことだろうと思います。また、今年、初めて役場の体験も取り入れられました。4人が来てくれましたが、役場職員の仕事内容を聞くにつれ、「なるほどそうだったのか」などと納得していくのが印象的でした。将来、村行政の担い手として役場で輝く彼らの姿を想像する時、頼もしさを感じました。

精一杯働いた3日間の体験はとても充実したものとなったようです。このことは、生徒たちに大きな心の変化をもたらして学習が終了しました。

七島集合学習は、久しぶりに中之島を会場にして実施されました。各島の5・6年生16人が参加して、3泊4日の日程で実施しました。ねらいは、①集団での生活を体験して、集団で生活するために大切な事に気づく。②少ない人数では体験できない学ぶ喜びを知る。③十島村についてもっと知りたいという気持ちを持つ。などで

このねらいに向かってみんなで協力しながら頑張りました。ほとんどの児童が、中之島は初めて訪ねるといふことで、大変興味を持ったようでした。寝食を共にする中で、互いに協力し、打ち解けあって楽しく、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

私が訪ねたときは、野外での活動が行われました。歴史民俗資料館の見学、天然記念物の「トカラ馬」とのふれあい、十島開発センターでの

活動の後、グループごとにバードウォッチングをしながら学校へと帰りました。事前の指導で示された10種類の野鳥を見つけたグループもありました。「アカヒゲ」「アカショウビン」「イイジマムシクイ」などの鳴き声を実際に聞き、歓声を上げていました。



また先生方にとっても、教員同士が互いに交流することが出来たことは、とてもよい機会になったと思います。日頃は、自分の赴任した島で過ごすことがほとんどなので、十島村をより深く知るいい機会になったのではないかと思います。

2つの事業を通して、「子どもたちは日頃自分のいる場所から、外の世界へと出かけて行き他島の仲間と一緒に、学び体験することで、極めて多くのものを得ている」と改めて感じました。まさに、子どもたちは、このような日頃なかなかできない体験を一つ一つ経ていくことによって、成長していくものだと思います。

多くの土産を身につけて帰ってきた子どもたち。これからの子どもたちの変容に期待したいと思います。

職場体験学習や集合学習では、たくさんの方々にお世話になりました。関係の方々には心よりお礼を申し上げます。

## 十島ファミリー劇場始まる！

### 1 諏訪之瀬島 (6/3:土曜日)

みやまコンセールから、音楽家(ピアノ、声楽、フルート)を招いて開催しました。音楽家の演奏と、児童生徒の合唱もすばらしいでした。



### 2 小宝島 (6/17:土曜日)

島唄(永志保さん)さんをお招きし開催しました。素晴らしい歌声と三味線に、観客は酔いしれ、子どもたちも一緒に歌って演奏するなど楽しいでした。最後は、六調で踊って閉会となりました。



## シリーズ——新聞に投稿1

(平成29年5月18日南日本新聞掲載)

悪石島小5年 森本 洋那

うまほあつと持送 し言しでなたす るか赤分毎お母話  
のせしたた思ちつ母まっまもがめ。母そら、カ年店のが「  
花んいたこいをてのうてい、ら息そはう、今1母が日合今  
」。とかとま私く日こい、そもをれ、でこ年ネのあなととき  
がす願くはずにれにとま私れ、つは家す。うは1日りんと  
咲べつてあ。思る合もせはを夜い、事。しビシがまだとき  
くて、り花いのわりあん、あ、て本も、てンヨ近せとき  
とのみまを出はせり。あた話、当仕、十クンづん。私ほ  
い家人んせ送さ、てます。逆りりをつに事、島でがくも  
い庭人ががてるり、強とのいれ変が、村し届と、ちの住  
ででに幸、くたがネ、くうよてたなん、学。たま子、ろ  
す。ちせきれめと、言、うくあこぼ、校三すど、ん、悪  
あがにつるなうシ、いとにれ、とつ、に十、も花石ま  
りいなと人の、ヨ、返あ思まとで、送六去の屋島生  
があつ心にかのン、しまつす言すい、ら年年人、も、  
とりてが会な気を、てりて、い、ま、れ前は数、は、

ありがどうの花

## シリーズ——新聞に投稿2

(平成29年5月18日南日本新聞掲載)

諏訪之瀬島小2年 日高 隼

てつそいら、うんえは、まぐはぶいぶ上つ、つば先  
みいしつ、きれがにせほしい、さおげてしかま日  
たたりもかし、もんかた、ぐひとおもろいばつに、  
いさ、たつかい大つぶに、いっついをか、たらて魚た  
でおりいとががつきてにも、きかうもつ上ら、つけ  
すで、いであたなかげぐ、たか魚ちたげ、し、いりは  
もルすつで、魚えらい、のつがあける、先、て、わ、に、る  
やの、ばたす、たつれぐ、で、て、つ、げ、ど、生、が、あ、い、く  
つ、と、た、て、い、き、と、ら、し、ま、し、と、先、生、  
と、言、う、な、い、け、た、思、た、し、ま、つ、い、ら、た、生、  
で、ぎ、ま、ど、ら、つ、大、よ、し、て、な、い、ら、た、  
く、に、し、た、い、ひ、な、け、る、と、た、お、  
れ、いた、の、ち、こ、  
や、い、り、

大ものどつたどお

## 南日本新聞掲載 (5/29)

悪石島小4年 片野田奏

## 南日本新聞

「子供の歌 (5/11)」



ねこがいた  
諏訪之瀬島小2年 沖園豪陽  
ねこがいた ひっかかれるから  
にげろにげろ  
でも ひっかかなかった  
なんだ  
やさしかったんだなあ



## 「教職員仲間であるあなた」への私からのメッセージ

口之島小学校 林 直樹  
小中併設校の十島村の学校は、教員としての価値観や物の見方を広げるには最高の環境です。私自身、同僚の先生方から多くのことを教えてもらっています。島の中で苦楽を共にする仲間です。校種や経験年数の垣根を越えていっぱい語ってみましょう。

## 小宝島での14年

小宝島中学校3年 清水宏太郎

私は、小宝島に来て14年になります。十島村は、フェリーが週に2便しかなく、小宝島にはお店もないので、不便を感じることもあります。

しかし、それ以上に島での生活は充実しています。島民の皆さんは、道路ですれ違うときに気軽に話しかけてくださったり、海や畑で獲れたものや餅などのお菓子を持ってきてくださったりします。

また、自然がとても豊かです。周りを青く透き通った海で囲まれ、ハイビスカスやアダンが、きれいに咲き誇っています。湧き出る温泉や牧場の牛、シラサギなどを見ていると心が和みます。

学校生活でもいいところがたくさんあります。授業は、少人数で行われます。だから、分からないことがあったら、すぐに質問することもできます。また、昼休みには、みんなで楽しく遊ぶこともできます。

このようなとても素晴らしい環境の中で過ごせることが、私にとっては、とてもかけがえのないものになっています。

来年の4月には、「島立ち」をして高校に進学します。小宝島のことを誇りに思っ、これからも頑張りたいです。

## 十島村の口之島小中学校からのメッセージ

口之島小学校 林 直樹

口之島に来て1年が過ぎた。この島に来て、「初めて」という経験をいくつかした。この島に来て、「初めて」という経験をいくつかした。

港での水泳の授業、岸から数m離れたところを泳いでいると、目の前をウミガメが横切った。子どもたちと一緒に大はしゃぎをしながら、見えなくなるまでウミガメを追いかけた。

学校農園に使う肥料は牛糞で、地域の方に分けていただいている。牛舎の隅に固められた牛糞は発酵中で、生暖かい湯気が何とも言えない香りを漂わせていた。それをスコップですく肥料袋に入れていく。畑にまいた牛糞は効果大で、農園の野菜は夏も冬も大豊作だった。

タケノコ採りでは、あのおいしい大名竹を採るのが大変な作業であることを身をもって知り、野生牛が崖を駆け上がった姿を見たときは、野生動物のたくましさにただ驚愕するばかりだった。

私たちは世の中の多くのことを「知識」として持っているが、体験できることはそう多くはない。しかし、島で生活していると五感を通していろいろなことを感じる事ができる。そして、これらの体験は、その後の生き方にも大きく影響してくるだろう。子どもたちならなおさらだ。島の子どもたちは本当に素直だ。そして、とてもたくましい。これも、島民の方々の温かさにふれ、島の自然と共に暮らしているからだだろう。私は、そんな子どもたちと一緒に学ぶことができ、教員として非常に恵まれていると思う。

口之島2年目は始まったばかり。島全体が教室だ。今年はどうな「初めて」が待っているだろう。やりたいことは山ほどある。子どもたちと一緒に、島ならではの学びを創っていききたい。

